

平成29年度岐阜県統計グラフコンクール審査結果について

- 主 催 岐阜県
- 後 援 岐阜新聞・ぎふチャン、岐阜県教育委員会、岐阜県小中学校教育研究会
- 目的等 本県における統計知識の普及と統計の表現技術の研さんを目的に、「第65回統計グラフ全国コンクール」推薦作品の選考を兼ねて毎年開催
- グラフの課題及び評価のポイント
全国コンクールに準じる
- 応募作品数の推移

	第1部 (小1・2)	第2部 (小3・4)	第3部 (小5・6)	第4部 (中学)	第5部 (高校一般)	パソコン統計 グラフの部	計
平成27年度	280	295	217	130	2	62	986
平成28年度	284	311	207	133	1	54	990
平成29年度	250	367	194	124	4	47	986

○ 入賞区分及び入賞作品数

入賞区分	第1部 (小1・2)	第2部 (小3・4)	第3部 (小5・6)	第4部 (中学)	第5部 (高校一般)	パソコン統計 グラフの部	計
岐阜県知事賞	1	1	1	1	1	1	6
岐阜新聞・ぎふチャン賞	1	1	1	1	0	1	5
入 選	3	3	3	3	0	3	15
佳 作	5	5	5	3	0	3	21
奨 励 賞	10	10	10	5	1	5	41
計	20	20	20	13	2	13	88

※ 上位26点(知事賞6点、岐阜新聞・ぎふチャン賞5点、入選15点)を全国コンクールに推薦

総 評

岐阜県統計グラフコンクールは今年度で65回目を迎えました。その歴史は古く、審査を行いながら、本コンクールが岐阜県の伝統として深く根付いていることを出品作品一つ一つから強く感じました。

本県の作品は、全国コンクールにおいても毎年高い評価を得ており、その質の高さが全国からも注目されております。昨年度も、本県の入賞作品26点を出品し、都道府県別で最も多い14名の方が受賞（入選5名、佳作9名）されました。これもひとえに、関係者の方々が統計知識の向上と統計の表現技術の向上を目的とした本事業の趣旨をご理解いただき、積極的に啓発及び指導いただいた成果だと感謝しております。

さて、今年度も県内各地から約986点の作品が寄せられました。小学校低・中学年では身近な話題をテーマに取り上げた作品、小学校高学年以上は今日的な話題をテーマに取り上げた作品、というように発達の段階に応じた題材を選んで作成されていました。また、学級で大切にしていることをまとめた作品が多く、児童生徒のこれまでの生活ぶりが感じられたコンクールでした。

作品の各部ごとの概要は次のとおりです。

《第1部》

日常生活の中で何気なく感じたことや興味に思ったことを題材とすることが多く、「がんばってる ぼくもうとうととこやさん」「1ねん1くみ は はぬけた？」といった低学年らしい視点で調べ、まとめた作品が数多くありました。

《第2部》

社会科の授業を通して関心をもった作品「ごみはへらせるよ！できることからやってみよう」、学校生活で大切にしている校歌を題材とした作品「歌いついでいきたい ぼくたちの校歌」など、知りたいと感じたことを深めようとする作品が数多くありました。

《第3部》

観光客と自分たちの意識の比較から調査した作品「もっときれいに！水門川」、先輩と自分たちの意識の比較からまとめた作品「もうすぐ中学生 楽しみと不安」など、調査方法やレイアウトを工夫し、主張点を明確にした作品が多くありました。

《第4部》

『子育て』が『孤育て』になっていませんか」「知ってほしい介護現場の今 明るい未来のために」など、身近な問題だけでなく、社会情勢を踏まえた題材が多くありました。また、統計資料を適切に活用し、より説得力のある作品が多いことも、今年度の作品の特徴として見られました。

《第5部》

長時間労働の現状とそれに伴う危機についてまとめた作品「長時間労働は何をもたらすか」が出品されました。働き方改革が叫ばれている中、私たちがどのように働くべきか、長時間労働の現状を知ることによって考えさせられる作品に仕上げられていました。

《パソコン統計グラフの部》

統計資料を活用したグラフはデータ量が多くなりがちですが、パソコンの機能を生かして見やすいグラフをつくったり、比較して考察できるように配置を工夫したりして仕上げた作品が多くありました。

最後に、さらにより主張点が明確になり、よりよい作品にするために気を付けるとよいことについて何点か示します。これらのことに留意し、来年度も優れた作品が多数出品されることを期待します。

【グラフの選択・作成について】

- ・発達の段階を踏まえ、同学年の児童生徒がグラフを見てわかるようなグラフの選択をしましょう。(小学校低学年で円グラフ、小学校高学年で絵グラフなど、学校での学習時期や発達の段階から適切ではないグラフを選択している作品もありました。)
- ・グラフを立体で表す時には、グラフの基準の位置や目盛り、角度によるズレなどに気を付け、正確に表しましょう。

【構成・レイアウトについて】

- ・主張点が伝わるタイトルを設定していきましょう。そのために、設問にストーリー性を持たせたり、矢印や配置によってつながりを持たせたりするとより主張点が明確になりやすいです。
- ・他の人にみてもらうことを考えて、文字やグラフの大きさ、形、色使い、配置などにも気を付けましょう。

【その他】

- ・第三者が作成した著作物の使用は法律で禁止されていますので、注意しましょう。(第三者が作成したイラストや写真、ホームページに掲載されているグラフをそのまま転載した例がありました。)